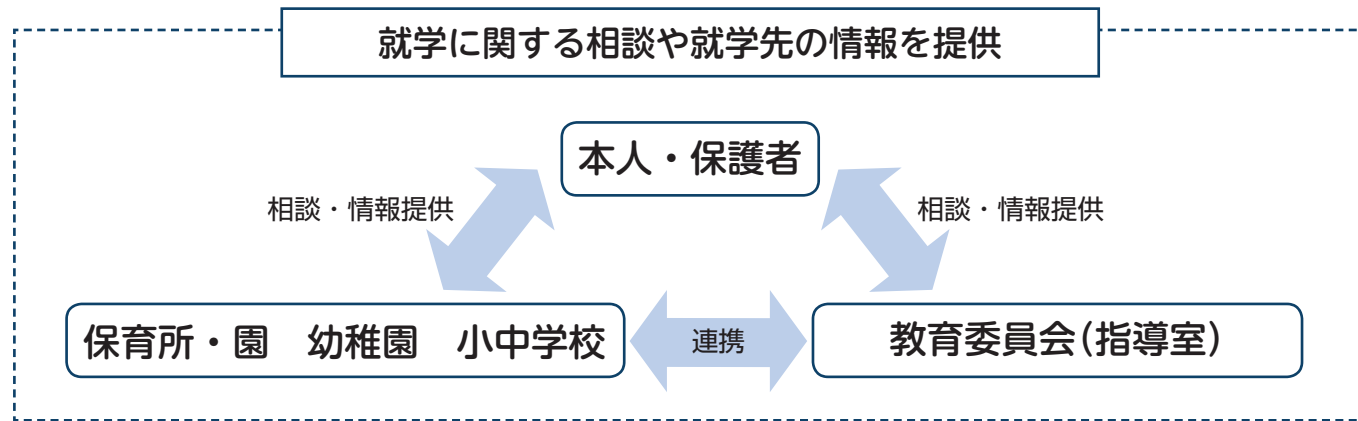


障がいのある児童・生徒の就学

障がいのある子どもの就学先を決める際には本人や保護者の意向を最大限尊重しています。
障がいのある子ども一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な指導や支援を行います。
☎指導室(朝日町☎6155・8229☎6155・8872)



地域の小中学校

<h4>通常学級</h4> <p>子どもたちがお互いを理解し、学び合い、育ち合う教育に取り組んでいます。集団での指導とともに、実態に応じて、指導内容や指導方法を工夫しています。 支援が必要な子どもには、保護者と連携し、必要な手立てを検討します。</p>	<h4>支援学級</h4> <p>個別の教育的ニーズを把握し、障がいの種別に応じて、以下の学級を設置しています。</p> <p>知的障がい 肢体不自由 病弱・身体虚弱 弱視 難聴 自閉症・情緒障がい</p>	<h4>センター校(拠点校)</h4> <p>難聴や肢体不自由の場合、市内在住の児童は校区に限らず以下の学校へ通うことができます。</p> <p>難聴学級 吹田第二小学校 第六中学校 肢体不自由学級 高野台小学校</p>
--	---	--

支援学校

自立を図るために必要な知識・技能の獲得をめざします。
府立吹田支援学校や府立摂津支援学校など
視覚障がい 聴覚障がい 知的障がい 肢体不自由 病弱を対象とした支援学校があります。

☆障がいの状態や住所によって通学区域が決まります。

弾力的な教育課程の編成
個別の教育支援計画 指導計画作成

通常学級の配席イメージ

支援学級の配席イメージ

支援学校の配席イメージ

教育理念

今 吹田から未来の力を
いのち 生命かがやき ともにつながり
未来を拓く吹田の教育

第58号

教育だより

平成29年(2017年)12月1日
発行 吹田市教育委員会
朝日町3・408
☎6155・8084☎6155・8077

吹田市の特別支援教育とは

市では全ての幼児・児童・生徒が「ともに学び、ともに育つ」教育をめざし、支援学級に在籍する子どもたちの支援だけでなく、通常学級に在籍する特別な教育的ニーズのある子どもたちに対しても適切な指導や支援を行っています。
☎教育センター ☎6388・1455☎6337・5412)

「個別の指導計画」の作成と活用

特別な教育的ニーズのある子どもには各学校・園で、必要に応じて、きめ細かな指導計画を作成します。学期や学年ごとに見直し、指導に活用します。

「特別支援教育コーディネーター」を中心とした組織

学校や園での適切な支援が行えるよう、教員を特別支援教育コーディネーターに指名し、保護者や関係機関との連絡・調整役を担っています。

小学1年生を対象とした巡回相談

特別な教育的ニーズのある児童(1年生)への早期支援を目的に、1学期から小学校全36校を訪問し、授業観察やヒアリングを通じて学校へのアドバイスをしています。

平成29年度特別支援教育コーディネーター研修

右の写真は今年度の研修の様子です。障がいの有無に関わらず、すべての児童や生徒にとって居場所のあるクラス作りについて講師が自身の体験談も交えながら話しました。



テーマ 「すべての子どもが安心できるあったかクラスづくり」

平成29年度 全国学力・学習状況調査の結果

4月18日、市内の小学6年生(3230人)、中学3年生(2947人)を対象に、小学生は国語と算数、中学生は国語と数学に関する全国学力・学習状況調査を行いました。結果の概要は市のホームページでも見ることができます。

☎指導室(朝日町☎6155・8229 ☎6155・8872)

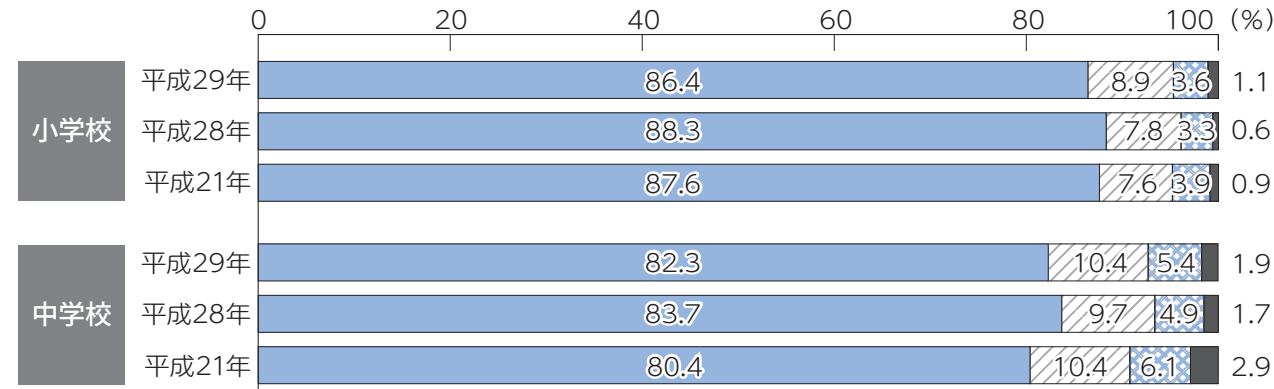
吹田市 学力調査 検索

学習状況調査の結果から

市の教育施策の効果を検証するため、平成29年度と小中一貫教育モデル校である千里みらい夢学園開校前の平成21年度の比較を掲載しています。いずれの項目でも小中一貫教育の成果が見られます。

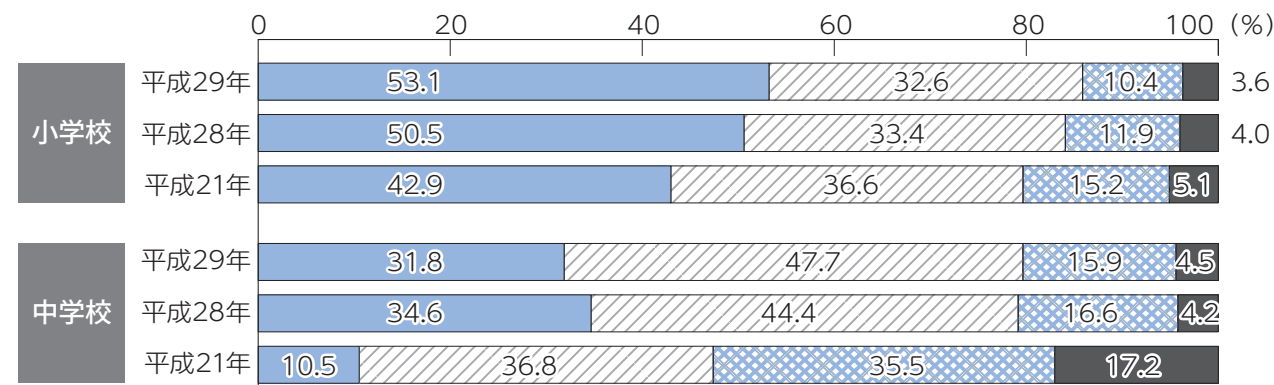
■ 当てはまる ■ どちらかといえば当てはまる ■ どちらかといえば当てはまらない ■ 当てはまらない
 数値は表示単位未満を四捨五入。項目ごとに合計するため、合計値が合わないことがあります。

朝食を毎日食べていますか



毎日朝食を食べている子どもは平成28年度よりわずかに減りましたが、平成21年度と比較すると小中学生ともに増えています。

授業では自分の考えを発表する機会が与えられていると思いますか



授業で自分の考えを発表する機会は平成21年度と比較すると小中学生ともに増えています。中学生は平成28年度より減りましたが、平成21年度より約30%増えています。

学習状況の向上のために

学校で取り組むこと

- 目標がはっきりとした授業の中で、子どもたちが友達と協同的に学ぶ良さを実感できることをめざします。
- 学校で統一した授業スタイルをめざし、小中学校の連携をはかります。
- 授業の中で社会の動きや時事問題を話題にし、子どもの興味関心をはかります。

家庭で取り組むこと

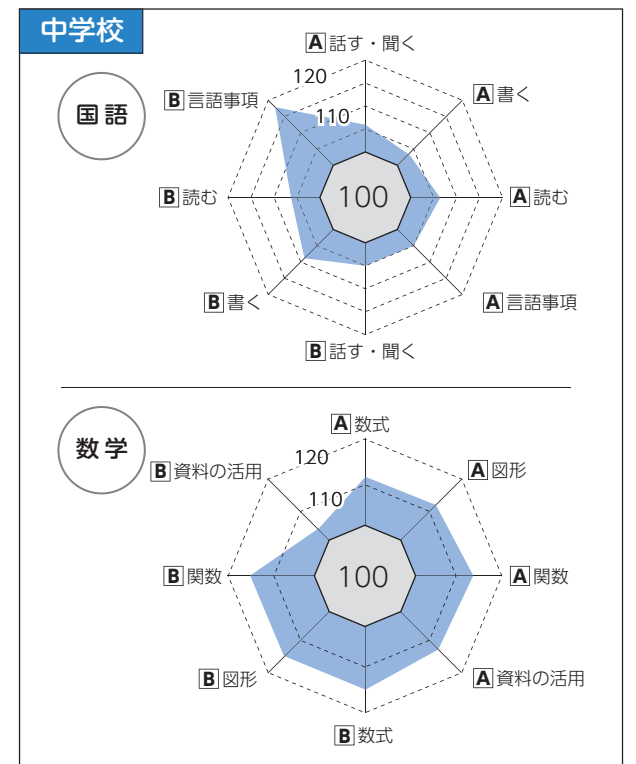
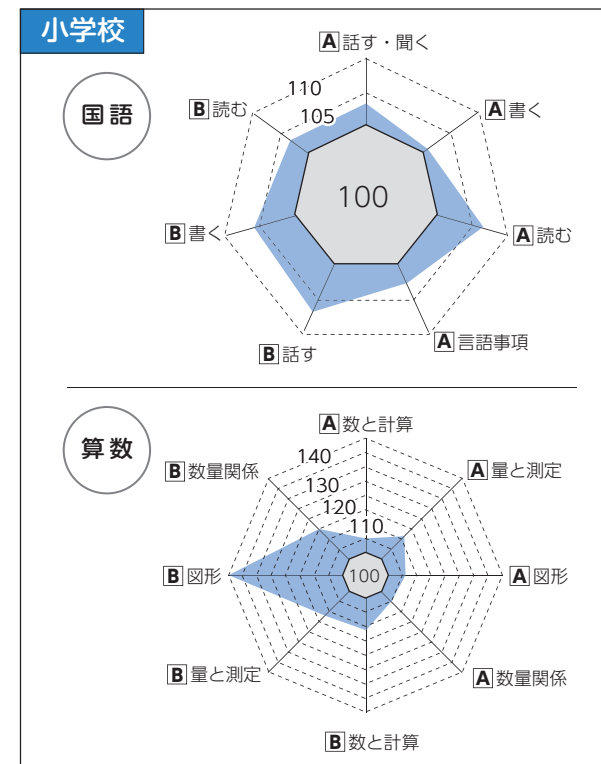
- 「早寝・早起き・朝ごはん」を習慣化しましょう。
- 携帯電話やスマートフォンは親子でよく話し合い、ルールを作りましょう。
- 家庭学習は子どもが取り組み方法を主体的に決められるようにしましょう。
- 家庭で習慣的に読書をしましょう。

学力調査の結果から

市の正答率は、小中学校とも全ての領域で全国平均を上回っています。平均正答率は向上しており、小中一貫教育を基盤とした「確かな学力」の定着が見られます。小学校算数のB領域では、前回調査と比べ正答率が上がりました。各校で分析のうえ、授業の改善を進めます。

領域別正答率の全国比

(全国平均を100としています) 100 全国(公立) 吹田市
 A問題 主として「知識・技能」に関する内容の正答率
 B問題 主として「活用する力」に関する内容の正答率



【吹田市一全国】領域別正答率の全国比<全国の平均正答率を100としたときの吹田市の平均正答率>

	小学校				中学校			
	国語A	国語B	算数A	算数B	国語A	国語B	数学A	数学B
平成29年吹田	102.9	106.1	105.6	113.3	104.7	106.6	113.0	112.3
平成28年比	▼3.0	▼0.7	▼0.7	3.8	▼0.1	▼0.6	▼1.8	▼7.2
平成21年比	▼2.4	▼3.8	▼0.9	2.9	5.6	8.1	6	8.6
平成28年吹田	105.9	106.9	106.3	109.5	104.8	107.2	114.8	119.5
平成21年吹田	105.3	109.9	104.7	110.4	99.1	98.5	107.0	103.7

学力向上のために

- 授業の「めあて」を明確にし、主体的、対話的な活動を伴った学習を進め、振り返る時間を確保します。
- 小中一貫教育を推進し、系統的・継続的な指導を行います。

- 習熟度別指導など、一人ひとりに応じたきめ細かな指導を行います。
- 読書活動・学校図書館教育、放課後学習、家庭との連携などの充実により、自学自習力の育成を図ります。